

ガルトマンの遺作展 ~ 展覧会の絵 (ガルトマンの思い出) ~

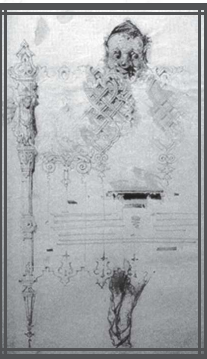
ムソルグスキーの代表作である組曲『展覧会の絵』は、彼の親友だった若い画家(建築家)ガルトマンの突然の死と遺作展をきっかけに作曲されたピアノ組曲である。

ガルトマンの死後、彼らの精神的指導者だった評論家スターソフの意志でガルトマンの遺作展が催されたが、当初ムソルグスキーは親友の死を認められず、遺作展へ行くのを嫌がっていた。しかし、遺作展を訪れたムソルグスキーはガルトマンの絵にインスピレーションを受けて、わずか2週間ほどで『展覧会の絵』を作曲したのである。

組曲『展覧会の絵』は、「プロムナード」と呼ばれる間奏が出演作をモチーフにした10曲をつなぐ構成になっている。展覧会を訪れたムソルグスキーが、会場を歩きながらひとつひとつの絵を見ていく様子を表しているようで、絵から絵へと移動する間の彼の心境が表現されている。ムソルグスキーと一緒にガルトマンの作品と彼との思い出を共有していただければ幸いである。



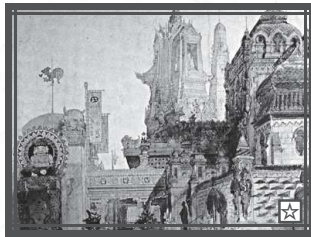
ヴィクトル・ガルトマン (1834-1873)



1. こびと Gnomus

ガルトマンが学んだペテルブルグの美術アカデミーに、卒業作品として保存されていた。スターソフの残したカタログにNo. 239として記録されていた絵。遺作展カタログには「グノム - 子供のおもちゃのデッサン。クリスマスパーティーのツリーの飾り」とある。

おや?この顔は見覚えあるぞ、ガルトマン。いつだったか君がこどものためにデザインしたクリスマスツリーの飾りのくるみ割り人形のグノムじゃないか。また会えるとは思わなかったよ!



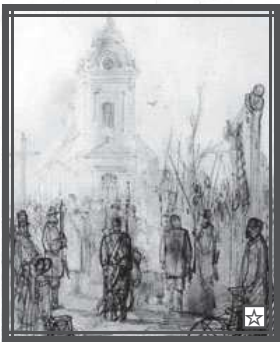
2. 古城 Il Vecchio castello

オペラ『ルスランとリュドミラ』の舞台装置のために描かれたデッサン「チェルノモールの城」。スターソフは「城の前で吟遊詩人がうたっている」と書いたが、この絵にも人影らしいものが見える。

4. ビドロ Bydlo

「ポーランドの反乱」と題された鉛筆描きのスケッチ。教会とギロチンと兵士たちの姿が描かれている。「ビドロ」は、ポーランド語で①家畜(牛)②(家畜のように)虐げられた人々、という2つの意味をもつ。自筆譜では題名が削り取られた痕がある。ムソルグスキーは、スターソフに「我々の間では「牛車(ビドロ)」と言うことにしておこう」と伝えたという。

しかし真意は「圧制に苦しむポーランドの人達」でスターソフは真意を知りながら、政治的配慮をして『ビドロ』としたのであろう、という説がある。



5. 卵の殻をつけたひな鳥の踊り Ballet невылупившихся птенцов

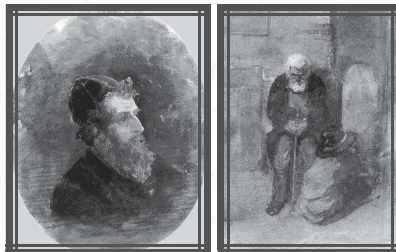
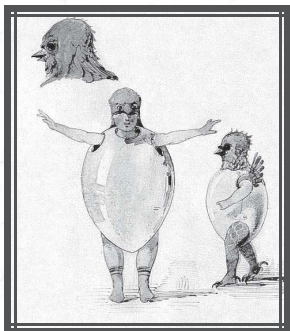
バレエ「トリルビー」のための衣装デッサン。この衣装は「小さな子供たちがカナリヤになって叫び声をあげる」という場面で利用された。

ははは!ヒヨコだ!まるで、いつもびよびよ動き回ってはしゃいでばかりいた君みたいだ!ほんと、じっとしていなかったよな、君は...



3. テュイルリーの庭 - 遊びの後の子どもたちの口げんか Tuileries - Dispute d'enfants après jeux

ガルトマンという署名と「パリ」という文字が書きこまれているスケッチ2枚。庭の絵はない。ムソルグスキー自筆楽譜には「テュイルリー、遊びの後の子供たちのけんか」とだけ書かれている。



6. サムエル・ゴールドデンベルクとシュムイレ Samuel Goldenberg und Schmuyle

ポーランドのサンドミルで描かれた金持ち(左)と貧しい(右)二人のユダヤ人。この時代もユダヤ人は迫害されていた。ムソルグスキーは、この2枚の絵を一つの音楽で表し、二人に對話をさせている。

このしみたれた貧乏じいさん...隣の高慢ききな金持ちじいさんに、なんかぐだぐだ言ってるみたいだ。けど、金持ちに傲慢にはなつてられるのが聞こえてくる...

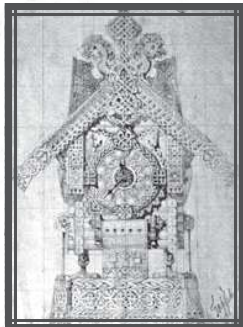
8. カタコンベ - ローマ時代の墓 Catacombae - Sepulchrum Romanum

ガルトマン自身らしい男が描かれている。そばには骸骨。楽譜には「亡くなったガルトマンの創造精神が訴えかけてくる」と書かれている。パリの地下墓地。水彩の小品。



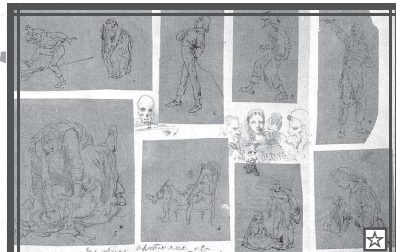
地下の暗い墓地からうめき声が聞こえる...。ガルトマンはこの日具合が悪いと言っていたのに、なぜもっと気遣ってやれなかったのだろうか?ただの神経質だと決めつけて...。愚か者の僕が判断を誤って君を殺してしまったのだ.....

9. 鶏の足のうえの小屋 - バーバ・ヤガー Избушка на куриных ножках - Баба-Яга

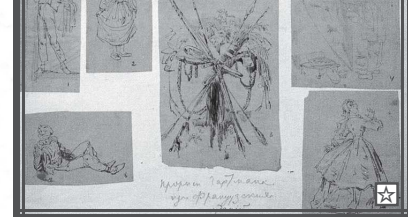


これは!バーバ・ヤガーの小屋だ!君はこのへんでこな魔女が好きで、確かこの魔女の仮装でスターソフの前に現れたんだってな!

鉛筆で描かれた時計のデッサン。ロシアの伝説に登場する魔女バーバ・ヤガーの小屋を型どったもの。バーバ・ヤガーは、めんどりの足の上に立つ小屋に住むとされる。

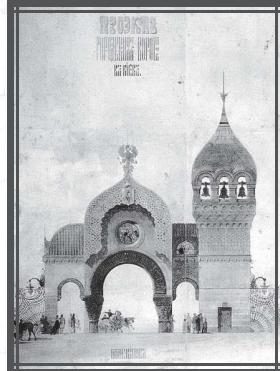


7. リモージュの市場 Limoges - Le marché



フランスで描かれた全部で14枚からなる鉛筆描きのスケッチ「フランスの女達」。遺作展のカタログにはリモージュで描かれたスケッチは多くあるが、この題名の絵はない。自筆楽譜には「女たちがけんかをしている。はげしく激昂してつかみかからんばかりに」との描写があり、その様子がこのスケッチに描かれている。

10. キエフの大門 Богатырские ворота - в стольном городе во Киеве



11世紀に建てられたキエフの「黄金の門」の再建のために、ガルトマンが設計し、描いたデッサン。この絵はキエフ市が開催したコンテストに応募され、大好評を博した。しかし、門の建設は実現されず、ガルトマンのこの建築作品は陽の目を見なかった。

ああ、ガルトマン。これこそが君の最高傑作だ。偉大なる我らロシアの栄光をたたえるための大門!鐘楼から鳴り響く鐘の音...聞こえてくる賛美歌...キエフにこの門が建つはずだったんだ!

「さあ、ガルトマン。君のキエフの大門を一緒に建てよう!」ムソルグスキーはピアノに向かい、はげしく何度も鍵盤をたたいた。力強い和音で作られた高らかな響きの合間には、ロシア正教のコラールが流れ、鐘の音が響き渡った。天にいるガルトマンへと届けとばかりに。彼は親友の代わりに威風堂々、朽ちることのない「音の大門」を建てた。



(絵画解説 0b. 桑原祐子)

☆は明確な特定がされていない絵

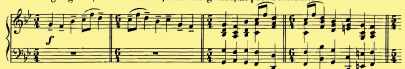
【参考文献】
関伊政磨・NHK取材班(1992) 『追跡 ムソルグスキー『展覧会の絵』』NHK出版。
アビソワ(1993) 『ムソルグスキー - その作品と生涯』 新読売社。

組曲『展覧会の絵』 プロムナードとモチーフとなった絵画

ムソルグスキーの代表作である組曲『展覧会の絵』は、彼の親友だった若い画家（建築家）ガルトマンの突然の死と遺作展をきっかけに作曲されたピアノ組曲である。この曲は、「プロムナード」（フランス語で散歩の意味）と呼ばれる間奏が、ガルトマンの作品をモチーフにした10曲をつなぐ構成になっている。今回演奏するのはピアノ組曲をもとに作られたオーケストラ版であるが、ここではピアノ組曲の譜面をもとに各プロムナードとモチーフとなった絵を紹介していく。

第1プロムナード

Allegro giusto, nel modo russo; senza allegrezza, ma poco sostenuto.



こびと (Gnomus)

第2プロムナード

Moderato comodo assai e con delicatezza.



古城 (Il Vecchio castello)

第3プロムナード

Moderato non tanto pesante.



テュイルリーの庭 — 遊びの後の子どもたちの口げんか (Tuileries - Dispute d'enfants après jeux)
ビドロ (Bydlo)

第4プロムナード

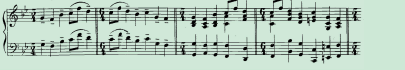
Tranquillo.



卵の殻をつけたひな鳥の踊り (Балет невылупившихся птенцов)
サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ (Samuel Goldenberg und Schmuyle)

第5プロムナード

Allegro giusto, nel modo russo; poco sostenuto.



リモージュの市場 (Limoges - Le marché)
カタコンベ — ローマ時代の墓 (Catacombae - Sepulchrum Romanum)

死せる言葉による死者への呼びかけ

(Cum mortuis in lingua mortua)

Andante non troppo, con lamalo.



鶏の足のうえの小屋 — バーバ・ヤガー (Избушка на куриных ножках - Баба-Яга)
キエフの大門 (Богатырские ворота - в стальном городе во Киеве)

1. こびと Gnomus



2. 古城 Il Vecchio castello



ガルトマンの美術アカデミーでの卒業作品。クリスマスツリーの飾りとして、子供のためにデザインしたとされる。

オペラ『ルスランとリユドミラ』の舞台装置のために描かれたデッサン『チュエルノモールの城』。※曲のモチーフとなった絵は、明確には特定されていない。

3. テュイルリーの庭 遊びの後の子どもたちの口げんか Tuileries - Dispute d'enfants après jeux



ガルトマンという署名と「パリ」という文字が書きこまれているスケッチ2枚。庭の絵はない。※曲のモチーフとなった絵は、明確には特定されていない。

4. ビドロ Bydlo



「ポーランドの反乱」と題された鉛筆書きのスケッチ。教会とギロチンと兵士たちの姿が描かれている。※曲のモチーフとなった絵は、明確には特定されていない。

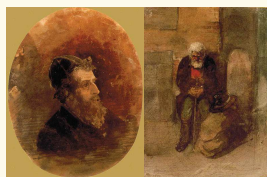
5. 卵の殻をつけたひな鳥の踊り Балет невылупившихся птенцов



バレエ「トリルビー」のための衣装デッサン。この衣装は「小さな子供たちがカナリヤになって叫び声をあげる」という場面で利用された。



6. サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ Samuel Goldenberg und Schmuyle



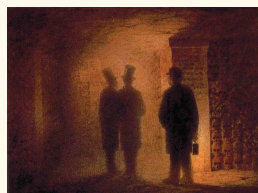
7. リモージュの市場 Limoges - Le marché



ポーランドのサンドミルで描かれた2枚の絵。左側は裕福なユダヤ人、右側は貧しいユダヤ人を表す。

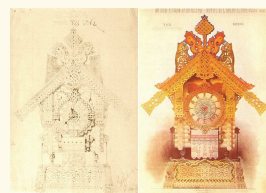
フランスで描かれた全14枚からなる鉛筆書きのスケッチ「フランスの女達」。女たちが激しく喧嘩をする様子が描かれている。※曲のモチーフとなった絵は、明確には特定されていない。

8. カタコンベ — ローマ時代の墓 Catacombae - Sepulchrum Romanum



パリの地下墓地を題材にした水彩の小品。右下にたくさんの頭蓋骨。右手前のカンテラを持つ人物が作者のガルトマンといわれている。

9. 鶏の足のうえの小屋 — バーバ・ヤガー Избушка на куриных ножках - Баба-Яга



左は鉛筆で描かれた時計のデッサン、右はその水彩画。ロシアの伝説に登場する魔女バーバ・ヤガーの小屋をかたどったもの。

10. キエフの大門

Богатырские ворота - в стальном городе во Киеве



キエフの凱旋門を再建する際に、ガルトマンが市のコンペに応募するために設計したデッサン。このデザインは好評だったが門の建設は実現しなかった。

